

施策1 医療機能の充実・強化

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化							
①救命救急医療の強化	①ソフト・ハード両面での救命救急患者受入れ能力の強化 ②かわさきコロナリーホットライン、かわさき腹急ホットラインの利用促進 ③脳卒中患者受入体制の維持・強化	救急車搬送患者総数	6,600人	3,395人	6,790人	102.9%	6,846人
		三次救急搬送患者数	1,160人	470人	940人	81.0%	967人
		かわさきコロナリーホットライン応需件数	100件	18件	36件	36.0%	52件
		かわさき腹急ホットライン応需件数 ※休止中	180件	0件	0件	0.0%	121件
		救命救急センター医師数	14名	14名	14名	100.0%	14名
		救命救急センターへの救急救命士配置数	6名	1名	1名	16.7%	0名
		救命救急センターへの専任薬剤師(1名)の配置	配置	配置	配置	-	配置
		救命救急センター棟の整備	施工	工事着手準備	工事着手準備	-	土壌対策工事着手準備
②災害医療機能の維持	①災害対策マニュアルの改定による病院危機管理体制の充実 ②災害医療企画室による災害時医療体制強化の検討 ③DMAT活動の充実 ④各種訓練実施・参加(ブラインド型訓練含む) ⑤災害備蓄の充実 ⑥災害時におけるライフライン(電気・ガス・水道)の確保及び強化	災害対策マニュアルの改定	実施	未実施	実施	-	実施
		院内災害医療訓練の実施回数	2回	1回	2回	100.0%	3回
		市災害医療訓練への参加	参加	未参加	参加	-	参加
		DMATの派遣【参考:活動回数】	実施	実施【1回】	実施【3回】	-	実施【3回】
		川崎DMATの派遣【参考:活動回数】	実施	実施【1回】	実施【2回】	-	実施【2回】
		3日以上以上の備蓄品(食料、飲料水、医薬品)の確保と適切な補充・交換	実施	実施	実施	-	実施
		エネルギー棟の整備(エネルギー関連設備の更新と地上階への整備)	運用開始	運用開始	運用	-	施工
		給水ポンプ棟の整備(給水ポンプ室・医療ガス機械室棟の地上階への移設)	運用開始	運用開始	運用	-	完成
③プレホスピタル活動の充実	①救急ワークステーションの設置に向けた準備(川崎病院における市内救急医療派遣事業「Kawasaki ONE PIECE」の発展的解消) ②救急隊からの要請に基づく医療チームの現場派遣 ③救急隊員(救急救命士)の研修支援	救急ワークステーションの設置	建築工事	土壌対策工事着手	土壌対策工事完了	-	消防局と調整
		医療チームの現場派遣件数	2件	1件	2件	100.0%	4件
		救急救命士及び学生の再教育及び就業前の研修延べ人数	172名	151名	217名	126.2%	193名

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充							
①高度手術医療の推進	①5大がん（胃、大腸、肝、乳、肺）の手術治療の強化 ②脳神経外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科等が扱うがんの手術治療の推進 ③鏡視下手術、内視鏡手術の推進 ④ロボット手術センターの運営	悪性腫瘍手術総件数	700件	366件	700件	100.0%	667件
		鏡視下、内視鏡下で施行した悪性腫瘍手術件数	360件	295件	550件	152.8%	488件
		手術支援ロボットで施行した悪性腫瘍手術件数	90件	53件	90件	100.0%	92件
		悪性腫瘍に関わる地域連携クリティカルパス整備件数	6件	9件	9件	150.0%	9件
②放射線治療・化学療法等の推進	①がん集学的治療センターの運営 ②放射線治療の推進 ③薬物療法のための外来治療センターの拡充 ④白血病など血液悪性腫瘍への適切な対応	がん集学的治療センターの運営	運用	運用	運用	-	運用
		外来治療センターの拡充（参考：設置ベッド数）	設計	設計	設計	-	設計準備
		血液悪性腫瘍に対応した無菌室5室の運用	実施	実施 (稼働率：101.9%)	実施	-	実施
③緩和ケア医療の充実	①緩和ケアチーム活動の充実 ②地域連携の強化を通じた緩和ケアの普及	緩和ケア診療加算算定件数	1,500件	802件	1,604件	106.9%	1,182件
		緩和的放射線治療件数	140件	96件	192件	137.1%	73件
		緩和ケアチーム回診回数	週6回	週6回	週6回	100.0%	週6回
		緩和ケアチーム回診延べ患者数	1,800人	1,195人	2,390人	132.8%	1,988人
		緩和ケアに関する教育・研修会の開催回数	2回	0回	2回	100.0%	2回
④がん相談体制等の充実	①がん相談支援センターの運営 ②がん相談専門員の育成 ③就労支援相談体制の確立	がん相談員基礎研修(1)(2)の受講人数	2名	1名	2名	100.0%	0名
		がん相談員基礎研修(3)の修了者在籍人数	1名	2名	2名	200.0%	1名
		がん相談件数	320件	202件	400件	125.0%	407件
		がんサロン開催回数	7回	3回	6回	85.7%	6回
		就労支援相談体制の充実	実施	実施	実施	-	実施

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
⑤がん検診の推進	①がん検診体制の維持・強化 ②がん検診実施の周知・啓発	肺がん検診実施件数	800件	428件	856件	107.0%	1,149件
		大腸がん検診実施件数	700件	384件	768件	109.7%	1,041件
		胃がん検診実施件数	600件	298件	596件	99.3%	802件
		子宮がん検診実施件数	300件	181件	362件	120.7%	361件
		乳がん検診実施件数	300件	211件	422件	140.7%	451件
		前立腺がん検診実施件数	150件	65件	130件	86.7%	192件
		がん検診に関連した市民啓発企画実施回数	1回	0回	1回	100.0%	1回
取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実							
①感染症医療の確保(第二種・新興感染症)	①感染症を専門とする医師や認定看護師の安定的な確保 ②第二種感染症指定医療機関の運営 ③新型コロナウイルス感染症への対応 ④新興感染症への対応準備	二類感染症入院患者等の受入れ	実施	実施	実施	-	実施
		感染症遺伝子検査の実施	実施	実施	実施	-	実施
		感染症対応訓練の実施	実施	実施	実施	-	実施
		新興感染症に備えた医療材料備蓄や医療機器の確保の取組	実施	実施	実施	-	実施
②小児・周産期医療の充実	①地域周産期母子医療センターの安定的な運営 ②新生児特定集中治療室(NICU)及び新生児回復治療室(GCU)の安定的な運営 ③川崎市小児科病院群輪番病院への参加 ④小児科棟における病室構成の見直し ⑤無痛分娩の開始	極低出生体重児(1000g未満児)の入院受入れ(参考:極低出生体重児受入人数)	実施(5名)	実施	実施	-	実施(1人)
		周産期救急取扱患者数	90人	83人	170人	188.9%	134人
		川崎市小児科病院群輪番病院への参加	参加	参加	参加	-	参加
		新生児集中治療室(NICU)の運用(参考:病床稼働率)	実施	実施	実施	-	実施(81.2%)
		新生児治療回復室(GCU)の運用(参考:病床稼働率)	実施	実施	実施	-	実施(27.1%)

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
③精神科医療の充実	①精神科救急医療の対応強化 ②精神疾患を有する身体合併症患者の診療支援（病病連携、院内他科連携） ③修正型電気痙攣療法（m-ECT）の実施	院内他科からの依頼件数	350件	204件	408件	116.6%	499件
		精神科救急夜間受入当番日の拡大	拡大準備	週1回	週1回	-	週1回
		修正型電気痙攣療法（m-ECT）の実施件数	280件	222件	444件	158.6%	396件
		精神科病院・診療所からの紹介件数	80件	50件	100件	125.0%	96件
		精神保健指定医の人数	3名以上	3名	3名	100.0%	3名
④特殊治療の推進	①画像下治療（インターベンショナル・ラジオロジー（IVR））の実施 ②心臓カテーテルアブレーション治療の実施 ③脳神経内科と連携したパーキンソン病の診断と脳深部電気刺激療法（ディープ・ブレイン・スティミュレーション（DBS））の実施 ④強度変調回転放射線治療（VMAT）の実施 ⑤呼吸同期放射線治療の実施	画像下治療（IVR）手術実施件数	560件	236件	472件	84.3%	588件
		心臓カテーテルアブレーション治療実施件数	40件	20件	40件	100.0%	37件
		脳深部電気刺激療法（DBS）実施件数	7件	8件	15件	214.3%	13件
		強度変調回転放射線治療（VMAT）実施件数	50件	36件	72件	144.0%	78件
		呼吸同期放射線治療実施件数	40件	0件	0件	0.0%	1件
⑤認知症疾患医療センターの運営	①もの忘れ外来、もの忘れ相談室の適切な運営 ②地域医療機関との連携強化（広報・会議・研修）	もの忘れ相談件数	100件	190件	380件	380.0%	295件
		もの忘れ外来患者数	80人	123人	250人	312.5%	196人
		認知症に関する地域医療従事者向け研修の実施回数	1回	0回	1回	100.0%	1回
⑥内視鏡診療の充実	①内視鏡治療センターの安定的な運用による質の高い高度な内視鏡診断・治療の提供 ②365日緊急内視鏡検査に対応できる体制の維持	内視鏡検査実施件数	7,250件	3,386件	6,772件	93.4%	6,830件
		緊急内視鏡検査実施件数	270件	120件	240件	88.9%	309件
		内視鏡治療実施件数	1,150件	522件	1,044件	90.8%	1,193件
		内視鏡治療センターの拡張	施工準備	施行準備	施行準備	-	設計

※R5.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
⑦診療支援部門の専門職による取組の推進	①病棟における薬物療法の質の向上と医療安全確保(病棟への薬剤師配置) ②リハビリテーション実施体制の強化 ③放射線診断機器、放射線治療機器の的確な運用 ④検査業務の的確な運用 ⑤病状・病態に応じた的確な栄養指導の実施 ⑥医療機器の運用及び保守点検	薬剤師配置病棟数	11病棟	7病棟	10病棟	90.9%	5病棟
		薬剤管理指導料算定件数	19,000件	6,828件	14,500件	76.3%	10,446件
		リハビリテーション実施単位数	167,000単位	76,346単位	152,692単位	91.4%	131,377単位
		PET-CT利用件数	1,100件	503件	1,100件	100.0%	1,106件
		夜間・休日における緊急画像診断検査の実施	実施	実施	実施	-	実施
		臨床検査精度管理の実施	実施	実施	実施	-	実施
		専門外来を含めた疾患別栄養指導料の算定件数	2,500件	1,033件	2,100件	84.0%	2,115件
		臨床工学技士の医療機器の定期保守点検の実施	実施	実施	実施	-	実施
⑧チーム医療の推進	①NST・摂食嚥下支援チーム医療の分離による専門性の高い医療の提供 ②褥瘡対策チーム医療の推進 ③呼吸サポートチーム医療の推進 ④排尿ケアチーム医療の推進 ⑤非がん患者緩和ケアの推進 ⑥早期離床チームの取組推進 ⑦倫理コンサルテーションチームの活用	NSTラウンドの実施人数	700人	343人	700人	100.0%	707人
		摂食嚥下支援チームラウンドの実施延べ人数	1,000人	521人	1,000人	100.0%	3,501人
		褥瘡発生率	1.0%以下	1.17%	1.15%	87.0%	1.28%
		呼吸サポートチームラウンドの実施依頼件数に対する応需率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		排尿ケアチームラウンドの実施依頼件数に対する応需率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		非がん患者緩和ケアチームラウンドの実施依頼件数に対する応需率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
		早期離床チームの実施病棟数	8病棟	12病棟	12病棟	150.0%	12病棟
		倫理コンサルテーションの実施	実施	実施	実施	-	実施
⑨チーム医療の推進	①専門看護師、認定看護師及び特定行為研修修了者による看護の質の向上 ②専門看護師、認定看護師及び特定行為研修修了者の計画的な育成、支援 ③特定行為研修修了者による取組の推進	専門看護師・認定看護師の人数	35名	31名	31名	88.6%	33名
		専門看護師・認定看護師の分野数	16分野	17分野	17分野	106.3%	16分野
		特定行為研修を修了した看護師の人数	5名	6名	7名	140.0%	6名

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(4) 医療安全の確保・拡充							
①医療安全対策の推進	①医療安全対策加算1に係る施設基準の維持（職員研修の実施、医療安全管理者の確保、各部門への支援と記録作成等） ②医療安全対策地域連携加算1に係る施設基準の維持（専任職員確保、年1回の相互ラウンド等） ③基礎的な医療安全対策の充実（院内委員会の開催等） ④医療安全に関する患者・家族からの相談への適切な対応	医療安全に関わる院内委員会の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	12回
		インシデントレポートの提出（参考：報告件数）	実施	実施（2,799件）	実施（5,598件）	-	実施（4,529件）
		患者・家族からの医療安全関連の相談対応（参考：相談件数）	実施	実施（143件）	実施（286件）	-	実施（240件）
		医療安全研修会の実施（参考：実施回数）	実施	実施（8回）	実施（19回）	-	実施（14回）
②院内感染対策の推進	①感染制御チーム（ICT）による活動の推進 ②感染症対策に資する病室（個室）の整備検討	感染制御チーム（ICT）ラウンド回数	50回	26件	50件	100.0%	50回
		感染管理研修会の実施（参考：実施回数）	実施	実施（10回）	実施（20回）	-	実施（50回）

取組内容の状況と分析、今後の方向性

【取組内容の状況と分析】

【取組項目（1） 救急・災害医療機能の強化】

新型コロナウイルス感染症患者受入体制確保のため、救命救急センター病棟の一部をコロナ専用病床にしたことなどにより三次救急搬送患者数は470人、三次救急応需率92.3%と目標値より減少した数値ですが、救急自動車搬送受入数は昨年度と同程度の受入件数を見込んでいます。

【取組項目（2） がん診療機能の強化・拡充】

就業中のがん患者が治療と職業生活の両立を図れるように、患者総合サポートセンターが中心となって健康福祉局と企業産業医が円滑に連携ができるよう就労支援相談体制を充実させる取り組みを行いました。

【取組項目（3） 高度専門医療の確保・充実】

多様化するニーズに対応するため、産科の無痛分娩を開始しました。また、地域周産期母子医療センター、精神科救急医療基幹病院、認知症疾患医療センター等高度かつ専門的な医療の提供を医師、看護師等の医療スタッフが一丸となって行いました。

【取組項目（4） 医療安全の確保・拡充】

医療事故の未然防止及び原因究明や再発防止に積極的に取り組むため、インシデントレポートの収集と情報の分析を行い、レポートの提出数は2,799件報告があり、昨年度を超える件数を見込んでいます。また、院内感染対策を徹底するため発熱患者との動線を分けて診察、検査等の対応を行いました。

【今後の方向性】

【取組項目（1） 救急・災害医療機能の強化】

三次救急搬送患者の応需について高いレベルで維持し、地域の基幹病院として「断らない救急」を継続していきます。また、プレホスピタル活動を充実させるため、救急ワークステーション設置に向けて消防局と連携、協議を行い、事故現場等へ迅速な救急・医療チームを派遣できるよう機能を強化していきます。また、救命救急センター棟の新築による設備面の強化と人材確保を行い、より効率的に受入れをできる体制を整えます。

災害拠点病院として、災害時に必要となる医療機能を安定的に提供するため、入院患者、医療スタッフの災害時に必要な食糧等の確保を継続して行います。

【取組項目（2） がん診療機能の強化・拡充】

がん診療機能の強化・拡充を図るため、手術・放射線治療・化学療法等の推進、緩和ケア医療の充実、がん相談体制の充実に取り組めます。

【取組項目（3） 高度専門医療の確保・充実】

高度かつ専門的な医療を提供できる医療機関として、複数の医療専門職が連携して治療やケアにあたるチーム医療を推進します。

【取組項目（4） 医療安全の確保・拡充】

医療事故の未然防止及び原因究明や再発防止に積極的に取り組むとともに、院内感染対策を徹底し、質の高い安全で安心な医療を提供します。

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

施策2 地域完結型医療の推進

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進							
①地域医療連携の推進	①外来患者の紹介・逆紹介の推進、医療提供体制に適した外来患者数の確保 ②二次、三次救急の強化のための体制整備 ③南部小児急病センターを含めた小児科初期救急のあり方検討会の設置 ④連携登録医療機関制度の推進 ⑤地域医療連携の会の開催 ⑥他院からの緊急受診応需率向上の取組の推進	地域連携クリニカルパス適用件数	75件	24件	48件	64.0%	33件
		他院からの緊急受診応需率	87.1%	70.8%	70.8%	81.3%	72.3%
		地域医療連携の会の開催(参考:参加人数)	実施(200人)	実施(182人)	実施(182人)	-	実施(117人)
		紹介患者数 ※4月～8月分	12,000人	5,234人	12,561人	104.7%	11,364人
		通院不要的退院率	45.0%以上	36.0%	40.0%	88.9%	40.5%
②地域包括ケアシステムの推進	①地域の他医療施設からの急性期患者の受入れ ②研修会開催、出前講座の実施 ③看護師、薬剤師、管理栄養士による入院前外来の強化 ④入退院支援係、医療福祉相談係との連携	地域ケア懇談会、出前講座開催回数	11回	4回	8回	72.7%	12回
		勉強会・症例検討会等への地域の医療・介護従事者等参加延べ人数	500人	272人	544人	108.8%	673人
		入退院支援加算算定件数	6,800件	4,212件	7,000件	102.9%	7,954件
		入院時支援加算算定件数	2,300件	1,612件	3,000件	130.4%	3,328件

取組内容の状況と分析、今後の方向性

【取組内容の状況と分析】
 【取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進】
 多くの地域医療機関と紹介、逆紹介の連携を行ってきた結果、10月に紹介受診重点医療機関の指定を受けました。地域包括ケアシステムによる医療、看護、介護、福祉サービス等が適切に提供されるよう患者総合サポートセンターを中心に地域で活動する医療、介護事業者との患者情報の共有や医療、介護の知識を深めるため勉強会、懇談会を行いました。なお、新型コロナウイルス感染症が5類化したことに伴い、7月に実施した地域連携の会は182人の参加者が集まりました。
 【今後の方向性】
 【取組項目 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進】
 地域における医療機能の分化に伴い、基幹病院として求められる高度、特殊な医療を確実かつ効率的に提供していくため「かかりつけ医制度」を推進し、地域医療機関との患者の紹介、逆紹介を進めます。
 また、引き続き、二次、三次救急の受け入れ体制を整備し断らない救急を目指すとともに、小児科医師不足が課題となっている中でも、川崎南部における土曜・日曜・祝日・年末年始の昼間及び毎夜間(365日)の小児科一次救急及び二次救急を地域医療機関とも連携して担っていきます。

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

施策3 効果的・効率的な運営体制づくり

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(1) 人材の確保・育成の推進							
①医療従事者の安定的な確保	①高度急性期病院としての医療提供に必要な医師・看護師・医療技術職の確保 ②採用選考の適切な実施による優秀な初期臨床研修医の確保 ③看護職人材確保のための広報活動の充実	医学生向け病院見学会の開催(参考:開催回数)	実施	実施(11回)	実施(18回)	-	実施(20回)
		看護学生向け病院見学会の開催回数	10回	4回	8回	80.0%	10回
		看護学生実習受入学校数	6校	4校	4校	66.7%	6校
		医師、看護師以外の学生受入体制の強化(参考:受入人数)	実施	実施(15名)	実施(21名)	-	実施(11名)
②職員の専門能力の向上	①資格取得支援の推進 ②資格専門職への待遇改善 ③事務職員の専門能力向上	特定看護師の資格取得支援	実施	実施(1名派遣)	実施(1名研修修了)	-	実施
		院内研究交流会・看護研究発表会報告演題件数	70件	未実施	-	-	85件
		医療事務職による診療報酬関連研修会の実施回数	1回	1回	1回	100.0%	1回
		診療情報管理士等資格保持者人数(常勤)	5名	5名	6名	120.0%	5名
取組項目(2) 働き方・仕事の進め方改革の推進							
①働きやすい職場づくり	①あいさつ励行、各部署におけるプリーフィング励行等による風通しの良い職場風土の醸成 ②時間外勤務時間の確認等による業務分担の見直し ③他職種によるタスクシフトの推進 ④新規採用者や異動者への精神的な配慮	職場に対する総合的な職員満足度(職員満足度調査)	40.0%	未実施	-	-	41.6%
②多様な働き方の推進	①医師の変形労働制の勤務時間の検討 ②ICTを利用したオンライン会議・オンライン研修の活用 ③看護助手、医師事務作業補助者の活用 ④委員会開催やメンバー選定の定期的な見直しと午後5時以降の会議開催の縮減 ⑤産育休を活用する職員に対する復帰後を見据えた丁寧な説明 ⑥医師時間外労働の縮減	医師事務作業補助者人数(常勤換算)	29名	30名	30名	103.4%	29名
		看護助手人数(常勤換算)	57名	61名	61名	107.0%	60.0名
		地域連携システムを活用したオンライン画像確認システムの運用	運用開始	運用	運用	-	実施
		時間外労働時間が80時間を超える医師人数	20名	59名	50名	40.0%	62.9名
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目(1) 人材の確保・育成の推進】 職員満足度調査は、ウェブによる調査を主とする形で10月から1か月間実施し、現在集計中です。特定行為研修については1名現在研修を行っており、今年度末研修終了予定となっております。</p> <p>【取組項目(2) 働き方・仕事の進め方改革の推進】 医療従事者の業務負担軽減を図るため医師事務作業補助者や看護補助者の確保に努め、昨年度に比べて増員する予定です。また、医師の働き方改革を進めるため、全医師が勤務実績票を記載することとしたほか、労働と研さんの切り分けの確認を行い、医師の労働時間短縮計画を作成しました。更に、労働基準監督署の宿日直許可や時間外勤務上限規制特例水準の指定に向けて医療機関勤務環境評価センターと調整を行うなど取組を進めました。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目(1) 人材の確保・育成の推進】 引き続き、質の高い医療、看護を安定的に提供するため優秀な人材の確保に努めます。また、医療事務職を活用し、職員の専門能力の向上に取り組み、診療報酬の適切な確保に努めるとともに、医師確保のため、医師の待遇改善を実現していきます。</p> <p>【取組項目(2) 働き方・仕事の進め方改革の推進】 医師の働き方改革について、医師労働時間短縮計画に基づき、労働と研さんの切り分けを進めるとともに、宿日直許可申請、時間外勤務上限規制特例水準の指定に向けた取組を推進します。 また、医師の業務のタスクシフトを行い、時間外労働時間の縮減、医療の質の向上、業務の効率化を図っていきます。</p>							

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

施策4 患者に優しい病院づくり

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目 患者サービスの向上							
①積極的な情報発信の推進	①ホームページを活用した情報提供 ②広報誌やデジタルサイネージの活用	ホームページ新規コンテンツ作成の推進（参考：新規コンテンツ掲載回数）	実施	実施（11回）	実施（20回）	-	実施（20回）
		広報誌（「くすの木」）発行回数	4回	2回	4回	100.0%	4回
		患者総合サポートセンターによる市民公開講座開催回数	4回	3回	6回	150.0%	6回
		クリニカル・インディケータ（臨床指標）の公表	実施	実施	実施	-	実施
②診療環境の向上	①患者満足度調査、報告会の実施 ②患者満足度調査報告を基にした業務改善委員会の実施及び各部門へのフィードバック ③外来待ち時間を長く感じさせないような環境整備の推進	業務改善委員会の開催回数	12回	6回	12回	100.0%	11回
		外来待ち時間調査の実施	実施	実施	実施	-	実施
		外来における総合的な満足度（患者満足度調査）	81.7%	未実施	-	-	84.6%
		入院における総合的な満足度（患者満足度調査）	89.3%	未実施	-	-	95.0%
③外国人への対応	①外国人患者受入医療機関認証制度（JMIP）の取得に向けた、環境整備と維持・運用 ②派遣医療通訳、双方向通訳デバイスの活用による円滑なコミュニケーション環境の維持・運用	外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の取得	取得	準備	取得	-	準備
		ホームページの外国語対応（英語・中国語）	実施・運用	準備（英語）	完了（英語）	-	検討
		かながわ医療通訳派遣システム利用件数	500件	361件	522件	104.4%	502件
		双方向通訳デバイスの活用	実施	実施	実施	-	実施
④相談体制の強化	①院内投書や市長への手紙等への適切な対応 ②アドボカシー相談への適切な対応	院内投書の実施（参考：お礼を含む投書件数）	実施	実施（90件）	実施（180件）	-	実施（151件）
		アドボカシー相談の実施（参考：相談件数）	実施	実施（143件）	実施（286件）	-	実施（239件）
取組内容の状況と分析、今後の方向性							
<p>【取組内容の状況と分析】</p> <p>【取組項目 患者サービスの向上】</p> <p>川崎の地域特性を考慮し、市内在住の外国人が安全、安心に医療を受けることができるよう、外国人患者受入認証制度（JMIP）の取得に向け、医師、看護師等の医療スタッフのメンバーで検討会を行い、ホームページの外国語対応などの準備を行っています。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>【取組項目 患者サービスの向上】</p> <p>患者本位のわかりやすい医療の提供については、病院の医療機能や患者が必要とする情報の積極的な発信、相談部門の強化に努めます。患者のニーズに合わせるためWi-Fiの拡充を行います。</p> <p>在住外国人や訪日外国人患者のサービス向上においては、外国人患者の的確な対応を図り、同意書などの外国語対応、医療通訳の調整など外国人患者受入認証制度（JMIP）の取得に向けた取組を進めます。</p>							

※R5.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

施策5 地域・社会への貢献

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目 地域・社会への貢献							
①医療職の育成	①医師臨床研修の実施 ②専門医制度専攻医研修の実施 ③地域医療機関医療従事者を対象とした症例検討会・研修会の開催	他院からの臨床研修医受入れ(参考:受入人数)	実施	実施(5名)	実施(11名)	-	実施(10名)
		当院の基幹型プログラム参加(専攻医(D3)数)	実施	実施(7名)	実施(7名)	-	実施(7名)
		院外医療従事者を対象とした症例検討会開催回数	2回	2回	4回	200.0%	1回
		感染対策出前講座の実施	実施	実施	実施	-	実施
		医療従事者向け研修会の開催回数	14回	11回	22回	157.1%	27回
②医療系学生の教育支援	①大学医学部学生の実習受入れ ②看護職養成学校学生の実習受入れ ③大学薬学部学生の実習受入れ ④中学校・高等学校学生の実習受入れ	実習受入学校数	25校	7校	8校	32.0%	8校
		大学医学部学生の実習受入れ(参考:受入人数)	実施	実施(19名)	実施(22名)	-	実施(18名)
		看護学校学生実習受入れ(参考:受入人数)	実施	220名	367名	-	実施(418名)
		薬学部学生実習受入れ(参考:受入人数)	実施	実施(4人)	実施(8人)	-	実施(8人)
③研究活動と学会発表、論文発表、治験参画	①学会活動への支援 ②治験参画の推進	学会発表件数	180件	-	-	-	143件
		論文発表の推進(参考:発表件数)	実施	実施	実施	-	実績(35件)
		治験協力の実施(参考:治験協力件数)	実施	実施	実施	-	実施
		高齢者の暮らし方と健康に関する調査への協力	実施	協力依頼なし	協力依頼なし	-	協力依頼なし
④市民に対する医学知識の普及啓発	①市民公開講座の実施 ②医療従事者向け研修会の実施	患者総合サポートセンターが開催する市民公開講座の開催回数(再掲)	4回	3回	6回	150.0%	6回
⑤環境を意識した病院運営	①高効率な熱源設備への更新(エネルギー棟の整備) ②効果的、効率的な熱源設備の運用管理	エネルギーサービスの運用管理	運用開始	実施(7月運用開始)	実施	-	施工
		LED照明の導入割合	100.0%	50.0%	75.0%	75.0%	50.0%

取組内容の状況と分析、今後の方向性

【取組内容の状況と分析】
 【取組項目 地域・社会への貢献】
 新型コロナウイルス感染症が5類化された現在も引き続き、感染対策室専任看護師が地域医療機関や福祉施設等へ出張し、感染対策について講演及び施設巡視を行い指導をするなど、広域で関係機関と連携して地域医療に取り組みを行いました。
 また、脱炭素化に向けて、整備を行ったエネルギー棟が完成し、コージェネレーションシステム運用を開始しました。
 さらに、病院内の照明を段階的にLED電球に交換を行います。環境に適した照度により省エネ効果が見込まれます。
 【今後の方向性】
 【取組項目 地域・社会への貢献】
 引き続き、地域住民、地域の医療従事者へ健康保持のための医学知識の普及啓発等に取り組みます。地域の医療従事者の指導、育成については、地域・社会への貢献として、取組を推進します。
 川崎病院医療機能再編整備計画に基づき脱炭素・循環型の持続可能なまちづくりを目指し、エネルギー消費の削減につながる取組を推進します。

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

施策6 強い経営体質への転換

川崎病院

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進							
①診療報酬の適切な確保	①時間外・休日夜間緊急手術加算1等の経営的効果の大きい施設基準の取得 ②取得済み加算の要件管理 ③各診療科の稼働状況の分析 ④全国の平均在院日数(Ⅱ期間)の把握と在院日数の短縮 ⑤経営企画・経営分析の検討	施設基準ワーキング年間開催回数	9回	5回	9回	100.0%	10回
		施設基準ワーキングからの提案による加算取得(参考:件数)	実施	実施(1件)	実施	-	実施(34件)
		在院日数を考慮したクリニカルパスの作成・修正件数	20件	9件	20件	100.0%	20件
		DPC入院期間Ⅰ・Ⅱ期の退院割合	64.0%	59.6%	64.0%	100.0%	65.2%
②医療資源の効率的な運営	①午前退院、午後入院の推進、診療科を超えた柔軟な病床管理 ②個室化の推進 ③手術の予定時間と実施所要時間との差異削減の推進、及び適切な人員配置 ④緊急手術への対応の強化	個室の整備	検討	検討	検討	-	検討
		日勤時間内の手術室稼働率	53.0%	55.6%	55.6%	104.9%	51.3%
		緊急手術件数	960件	583件	1,000件	104.2%	929件
取組項目(2) 経費節減・抑制の強化							
①経費節減・抑制に向けた取組の推進	①コンサルタント業者と共同した薬剤費、診療材料費の価格交渉の推進 ②医療機器保守契約委託料の見直しや削減	コンサルタント業者と共同した薬剤費、診療材料費の価格交渉の実施(参考:交渉回数)	実施	実施	実施	-	実施(11回)
		医療機器購入時における保守契約を含めた合併入札の実施率	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%
②適正な医療機器整備の推進	①必要性、収益性を吟味した購入審査 ②適切な価格交渉、価格低減 ③計画的な高額医療機器の取得、更新	医療機器購入時における病院三役による価格交渉の実施率	35.9%	25.0%	25.0%	69.6%	25.0%
		計画的な高額医療機器の取得、更新	実施	実施	実施	-	実施

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和5年度の主な取組内容	成果指標名	R5年度目標値	上半期実績値(※)	年間想定値	達成率	R4年度実績値
取組項目(3) 経営管理体制の強化							
①経営管理体制の強化に向けた取組の推進	①財務・コスト管理の実施 ②医療経営に携わる人材育成 ③職員への適切な情報発信、職員の意識改革 ④自院の担つべき診療体制の検討	月次決算状況及び年次決算見込みの把握	実施	実施	実施	-	実施
		院長メッセージによる運営方針や経営状況の発信回数	4回	2回	4回	100.0%	4回
		診療科等ヒアリングの実施回数	2回	1回	2回	100.0%	2回
②医療情報・情報機器の一括管理体制の構築	①部門の用意及び当該システム担当者の配置 ②各医療情報システムの導入・更新時の評価 ③当該部署による医療情報分析作業の一元化の推進 ④医師事務作業補助者向け医療情報に関する研修及び一次データ作成支援 ⑤診療現場からの改善要望への迅速な対応（操作性・閲覧性改善） ⑥経営判断に資する分析データ資料作成	専門部署の設置	設置	設置	設置	-	設置
		診療データ作成の推進	実施	実施	実施	-	実施
		医師事務作業補助者向け研修会の実施	実施	実施	実施	-	実施
		診療現場からの改善要望に基づく医療情報システム改修の実施	実施	実施	実施	-	実施
③医療情報の情報連携及び医療情報セキュリティの強化	①地域医療連携システムの導入・利用促進 ②医療情報システムを介した大学等との診療連携・研究支援 ③病院職員への情報セキュリティに関する研修の実施 ④医療情報システムがダウンした場合に備えた災害対策の立案、訓練の実施	地域医療連携システム新規導入医療機関数	5施設	0施設	1施設	20.0%	0施設
		医療情報に関する研修会の実施	実施	未実施	実施	-	実施
		情報セキュリティに関する研修会の実施	実施	未実施	実施	-	実施
		システムダウンに備えた訓練の実施	実施	未実施	実施	-	実施

取組内容の状況と分析、今後の方向性

【取組内容の状況と分析】
 【取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進】
 令和4年9月から中長期的な視点から川崎病院の経営について議論する場として、病院三役、主要な診療科部長で構成された川崎病院経営戦略会議では、医師の働き方や材料費等の高騰に伴い、収益を確保するための分析や戦略について議論を行っています。
 【取組項目(2) 経費削減・抑制の強化】
 質の高い医療を維持することを前提にコンサルタント事業者と共同し、材料費高騰の中、薬剤費、診療材料費の単価を削減する取り組みを行っています。
 【取組項目(3) 経営管理体制の強化】
 各診療科と院長ヒアリングを行い、診療科別での目標稼働額を設定し、診療稼働額における指標を作成しました。また、四半期ごとに行う「院長メッセージ」の中で病院の経営状況や課題等に係る情報共有を行い職員の意識改革を行いました。
 また、医療情報システムの研修について計画・策定を行うとともに専門職の採用選考を行いました。
 【今後の方向性】
 【取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進】
 川崎病院経営戦略会議では各診療科の課題報告や稼働状況の分析等を行い、診療報酬の適切な確保及び医療資源の効率的な運営を行っていきます。
 【取組項目(2) 経費削減・抑制の強化】
 医療材料等のより安価な同等品切り替えや、適正な在庫管理に努めます。また、質の高い医療を提供、維持するために医療機器の購入にあたっては必要性・収益性を十分検討した上でを行い、購入後は稼働状況について調査していきます。
 【取組項目(3) 経営管理体制の強化】
 「院長メッセージ」により病院職員の経営意識の醸成を進めます。また、機器の導入・管理及び医療情報の集約による経営分析を行うため、医療情報システムを一括管理する部門を拡充し、効率的な業務改善を行うとともに、医療情報セキュリティの強化を行います。

※R5.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。